



受け継がれてきた 日本の木造建築の技

いまの家

- ① 人工乾燥
- ② ライン化された工場で柱・梁を刻む
- ③ 接合部は仕口と金物の合わせ技で
- ④ 工期が短い（2~3日）プレカット
- ⑤ 乾燥した材は仕口や継手を自動加工するプレカット工場に運ばれます。プレカットは2~3日で終わり、大工が現場で組み上げます。接合部の多くは簡易な仕口や継手なので金物で補強します。こうして分業化が進んだ現場では棟梁のような骨組みの全てを把握する技術者は少なくなっています。

HARAI SO HUT

- ① 天然乾燥
- ② 棟梁が墨付けをし、手工具で刻む柱と梁
- ③ 木を木でつなぐ巧みな技
- ④ 工期が長い（6ヶ月）墨付け・刻み
- ⑤ 乾燥した材は棟梁が1本ずつ特性を見て配置を決めて番付を振り、仕口や継手を墨付けをして刻みます。この作業は骨組みが頭に入っている棟梁にしかできません。刻まれた材は（現場に搬入され）はめ合わせたり、差し込んだりしながら組み立てて棟を上げます。金物は一切用いないで強度を保ちます。この接合部のあり方こそが、日本の木造建築特有の美しさです。



いまの家と、HARAI SO HUT の違いを書きました。それぞれにメリット・デメリットはあるので、どちらが優れているかは千差万別です。僕は手仕事で家作りをしている棟梁・大工の技を、もっと大きく言えば日本の木造建築の技を、見たい、見てもらい体感してもらいたくて企画をしました。僕自身がHARAI SO HUT の、またそれを作る棟梁の1番のファンです。完成を楽しみにしています。

